

祥三年下符、勿禁採樵牧馬、備前國兒島郡野、永爲藏人所獵野、承和之制、今緣不行、何禁芻蕘、莫害農畝、總施法禁、領下諸國、

〔類聚三代格十六〕太政官符

應聽樵蘇禁野內事

右禁野之興、非妨民業、至於草樹、素不拘制、去嘉祥三年四月廿三日、今年正月廿一日下知已了、而今預等、假託威勢、矯行非法、或駈略牛馬、忽无放牧之便、或掠忽鎌斧、遂失樵蘇之利、百姓愁苦、莫大於斯、右大臣宣奉勅、宜重下知、勿令更然、若不改前轍、猶致侵擾者、必處違勅、曾不寬宥、國司許容、亦與同罪、

元慶七年十二月廿二日

〔扶桑略記<sup>二十三</sup>〕寛平元年十二月二日、甘南扶持還來云、去廿九日申時始到島下郡、<sup>○攝津</sup>審問事由、

郷人語云、太上天皇<sup>○陽成</sup>御此郷、備後守藤原氏助之宅御在所也、<sup>○中略</sup>此爲狩取安倍山猪鹿也、<sup>○中略</sup>

今日以伴山爲院、禁野、宇治繼雄爲專當、勝示路頭、

〔萬葉集<sup>一</sup>雜歌〕天皇遊獵蒲生野、時額田王作歌、

茜草指武良前野、逝標野行、野守者不見哉、君之袖布流、

〔續古今和歌集<sup>五</sup>〕文永二年九月十三夜歌合に野鹿を、

ねられずや妻をこふらん、玄めのゆきむらさきのゆき鹿ぞ鳴なる

太上天皇

名野

〔枕草子<sup>九</sup>〕野は

嵯峨野さらなり、いなみ野、かた野、こま野、あはづ野、飛火野、しめぢ野、そうけのこそすゝろにおか  
しけれ、などさつけたるにかあらん、あべの宮城野、かすが野、むらさき野、

〔奥義抄<sup>上ノ下</sup>〕出萬葉集所名、普通名所不注

野